



准教授 Nassani Alaeddin

## 気分によって難易度が変わる新しい語学学習

## 概要

言語学習への拡張現実（XR）の導入は、学習者のエンゲージメントと記憶定着率を大幅に向上させました。しかし、従来のXR学習環境は、学習者の生理的・感情的状態を考慮していないため、学習体験を完全にパーソナライズすることが困難な場合があります。本研究では、学習者の生理的指標をリアルタイムでモニタリングし、同データに対応することで学習体験をパーソナライズする、XR語学学習アプローチを提案します。ウェアラブルセンサーから収集したストレスや感情データに基づいた難易度と教育的アプローチを調整することで、より効果的でパーソナライズされた学習環境の構築を目指し、語彙習得、文法力、スピーキング力、学習者のエンゲージメントなど主要分野を比較研究することで、言語学習への影響を評価します。

## 実用化の可能性

- 生体信号データに基づく適応型VR環境
- VRトレーニングシミュレーションにおけるストレス検出
- XRリモートコラボレーションにおける共感力の向上

## UBICからのメッセージ

本研究で提案する生体信号データに基づく適応型XR学習アプローチは、学習者の状態に応じてリアルタイムに学習内容や難易度を調整できる点に特徴があります。今後は、語学学習のみならず、職業訓練など多様な分野での応用が期待されます。特に、学習者のストレスや集中度を考慮した個別最適化により、より効果的で持続的な学習支援の実現が見込まれます。

## 研究概要図

